

平成 26 年度事業報告

今日の社会福祉を取り巻く状況は、少子高齢化の進展や家族形態の多様化、コミュニティ機能の低下が進むなど、公的な制度だけでは解決できない様々な問題が発生しています。

こうした状況の中で、本会は、地域福祉を推進する中核的団体として、地域に密着した事業に取り組むとともに、住民参加や協働による福祉活動の支援、福祉のまちづくりやコミュニティづくりを推進する役割を担い、「地域で共に助けあい、支えあうまちづくり」の実現のため、より一層住民参加を促進し、市民ニーズに応えたきめの細かい事業展開に努めました。

また、事務事業全体の財源確保が大変厳しい状況ですが、地域住民に依拠した民間の福祉団体として、信頼される社協づくりや、地域のニーズと新しい時代の要請に基づいた新たな事業の開発・実施、人材の育成など、創意工夫により、行政はもとより地域の住民や各種機関・団体等と連携・協働して、事業の積極的な推進を図ることで、「誰もが安心して暮らせる福祉のまちづくり」に努めました。

1 第3期福生市地域福祉活動計画～ささえあいプランふっさ～の推進

計画4年目の今年度は、次の4項目の更なる推進に向けて進行管理と充実を図り、より多くの市民の主体的参加を呼びかけ、支えあう福祉のまちづくりに取り組みました。

- ①小地域福祉活動の推進
- ②ボランティア・市民活動の推進
- ③住民参加型の在宅福祉サービスの推進
- ④地域福祉を推進するための協働の場づくり

2 社協らしい事業の展開

第3期福祉センター指定管理者の初年度として、これまでに蓄積した経験を生かし、指定管理を含め、各種事業について、市民・行政・各種団体等の負託に応え、地域福祉を推進する中核的団体として、より一層充実した事業運営に努めました。

3 災害に備えた社協の体制強化

災害に備え、地域の住民や各種機関・団体と連携して、小地域福祉活動など日常的な地域の支え合いの仕組みづくりを構築し、更に、福生市との「災害時におけるボランティア活動等に関する協定書」に基づき、行政と協働して災害に備えた取り組みの強化に努めました。

4 時代に対応した社協の体制づくり

社協職員としての資質の向上を図り、財源確保が非常に厳しい状況下において、引き続き経営体制づくりの強化に努めました。

また、有資格者の確保に努め、障害者雇用にも取り組み、職員が専門性を発揮し、新たな事業の開発・実施に努めました。

次に、平成26年度の各事業内容及び実施状況の報告を申し上げます。